

陳情第149号	受理年月日	令和元年9月19日
付託委員会	建設建築委員会	
件名	折尾駅南側駅前広場で計画されているバス乗降場の北側駅前広場への計画見直しについて	
要旨	<p>現在、折尾地区総合整備事業で計画されている折尾駅のバス乗降場については、南側駅前広場に設置されようとしている。</p> <p>今後、さらに高齢化が進み、足腰が弱く、物覚えが悪くなる高齢者や運転免許証返納が進む中で公共交通機関を使う人が増加していくことが予測される。</p> <p>バリアフリー新法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)でも、バリアのないルートの確保(可能な限り最短距離で、高低差が少なく、見通しがよく、わかりやすいルートと空間を連続的に確保することなど)が義務付けられている。</p> <p>特に、折尾駅は、九州で5番目の乗降数を誇り、日に約750台のバスが出入りしている。そこで折尾駅の公共交通機関の乗り継ぎは、最短距離、安心安全、わかりやすくすることが重要だと考える。</p> <p>折尾駅は周辺市町に広がる電車、バスの交通の要衝となっている。</p> <p>しかし、一番影響を受ける利用者の意向を調査もせず、また説明会を一度も行わず、非公開で決定されたこと。バス乗降場が南側駅前広場に決定した最大の要因が違うこと。スタジオアルファ前の交差点での渋滞を交通事業者伝えていないこと。南側駅前広場に設置予定のバス乗降場の広さは、北側駅前広場よりも狭いこと。など、バス乗降場が南側駅前広場に設置されることに疑問を感じる。</p> <p>また、当会が行った市民へのアンケート調査では、バス乗降場が南側駅前広場になることを知らなかったが98%、設置場所は北側がいいが、97%であった。</p> <p>さらに、南側駅前広場にバス乗降場ができた場合に予測されることとして、バス停からJR改札口までの歩行距離が長くなること。改札口近くの高架下連絡通路が長さ50m、内法6mで、朝のラッシュ時に乗客が</p>	

(続 く)

ぶつかるなどの危険性があること。北側駅前広場と南側駅前広場を比較した場合、バスの移動距離が長くなり、バス停到着までの距離が長く、渋滞でバスが定刻に到着しないこと。などが予測される。

については、電車とバスの乗換えを最短距離にするため、安心・安全な動線を確認するため、改札口からバス乗降場が見渡せ、わかりやすくするため、渋滞が少なく定刻にバスが到着するために、南側駅前広場に設置予定のバス乗降場を北側駅前広場に設置されるよう見直しを行っていただきたい。